

# 令和5年度 事業報告

## 施設名 清瀬喜望園

### 1 総 括

新型コロナにつきましては、5月に感染症法の分類もインフルエンザと同等に引き下げられましたが、清瀬喜望園においては7月末に職員から始まり、8月末までに職員14名、ご利用者6名の感染が確認されました。その中ではご利用者の1名がコロナ感染を原因としてお亡くなりになっています。ご利用者の生活におきましては、一定の制限は設けましたが、感染対策を万全にして家族等との面会の継続、お花見散歩、ショッピングモールへの外出や近隣商店までの買い物同行を実施しました。また、コットンクラブやひまわり喫茶のボランティアを継続的に受け入れ、できる限り生活の幅を狭めることなく、ご利用者にはコロナによるストレスを感じさせないように工夫してきました。

入所に関しましては定員60名のところ、令和4年度末の段階で現員49名という状況でした。現場の負担も考慮しながら、段階的に入所者を確保するため、都卒を活用した入所計画をたて、3月末には60名と満床にすることができました。

入退職者に関しましては入職者27名、退職者14名と出入りが激しいところでしたが、1月以降は落ち着いている状況です。

「地域と共に暮らす」をコンセプトに掲げた活動につきましては、三小地区円卓会議に毎回参加して情報交換を行い、地元の中学校在学しているペットボトルのエコキャップ活動に賛同しご利用者と共に参加しています。近隣の保育園とは七夕飾りの交換や清瀬喜望園で開催した納涼祭に招待するなど交流を図りました。また、武蔵野大学との交流を積極的に行い、学校の授業1コマを喜望園で開催したり、学生による企画運営で行事を開催しました。この行事につきましては、予想以上の評価をご利用者やご家族からいただき、今後も継続的に開催することになりました。

次年度につきましては、施設のコンセプトである“地域と共に暮らす”ことを前面に出し、清瀬にある3施設で引き続き協同し、より連携を深めていきます。また、新施設への移行が1年延長されたことをチャンスと捉え、令和7年4月1日には万全の態勢で新施設での事業開始ができるよう準備を進めていきます。職員それぞれの役割や責任を確認したうえで、1人ひとりのスキルや経験を底上げしていきます。

### 2 重点目標の取り組みと来期の課題

#### 1) 地域共生

<b>【目標】</b>
・民間移譲を目指し、地域と交わる施設作りをするために地域の関係を強化する。
<b>【取り組み状況と結果】</b>
・当初の目的である地域資源の確保と再発掘、施設の地域開放では、感染症対策の関係で“街歩きマップ隊”の活動はペンディングとなりました。その他、具体的な取り組みとして武蔵野大学との共同イベントの開催や、清瀬市内の住民や学校、福祉施設、地域のサークル等が出席

する円卓会議、近隣保育園や小中学校で取り組んでいるエコキャップ運動へ参画し、喜望園と地域との関りを浸透するための取り組みを実施しました。

清瀬市及び小平市へのニーズ把握の一環として、令和7年度4月、新施設へ移行後に行う新規事業である通所生活介護事業、短期入所事業の開設に係る聴き取り調査を行っております。また、同一法人傘下事業所である清瀬療護園、カーサマリモと共同し、清瀬エリアの3施設が短期入所窓口の一体化を図るため、“短期入所連絡会”を合同開催し、お互いの施設の受け入れ状況や課題を共有しました。

#### 【今後の課題】

- ・令和6年4月から現仮設建物で運営するにあたり、今年度も武蔵野大学との共同イベントの開催や、円卓会議等を介した地域との繋がり、情報交換を継続しつつ、解放感ある施設の取り組みを強化して行くことで、地域にとって当施設が当たり前の存在であり続けること、また、新たな取り組みの幅を広げることが課題です。それらの活動を通じてご利用者はもちろんのこと施設職員においても“地域との関りを通じた支援の楽しさ”を感じることで、より地域との共生を実感できる取り組みであることの理解を得られると考えます。

- ・清瀬エリアの3施設による合同地域福祉委員会の立ち上げにより、各施設で取り組む地域を交えた行事や企画を合同開催しエンパワーメントに繋げることで、より良く豊かなご利用者の生活の実現に繋がる取り組みになると考えます。

- ・対外的な取り組みとして、コミュニティーキャストを中心にホームページやインスタグラムを介し行事や企画、新施設建築の進捗状況を随時情報発信するなど、当施設の取り組みのPR活動を継続して行っています。

- ・新施設に多く設けている活動スペースを有効に活用し、地域の方々や清瀬療護園と共にどのような取り組みができるのかを合同地域福祉委員会を中心として検討してまいります。

## 2) 建て替えプロジェクト

#### 【目標】

- ・令和6年4月、新施設へスムーズに移行します。

#### 【取り組み状況と結果】

- ・新施設建築に着工し間もなく、医療ゴミが大量に埋もれていた事で、工期が1年延長することになりました。東京都との協議を重ねた結果、令和6年度も現仮設建物で運営を継続する運びとなりました。工期が延長となることに伴い、建築費用の増大や次年度も仮設建物で運営することによる運営費用捻出のための収支シミュレーションの繰り返し精査、また、東京都との協議を重ねました。

- ・当初は工期の詳細が不明瞭であったことで、新施設建築に係る諸々の作業が中断し、具体的な予定を立てられない状況が続きましたが、その中でも“ものえらび検討会”を中心とした不用品や新規購入物品の選別等、引っ越しスケジュールの検討等、できる限りの作業を進めてまいりました。

- ・毎週開催している課長主任ミーティングにて支援体制のスモールステップ（男女混合フロア、ユニットの使い方等）を共有し、一体化運営を意識した新施設移行に係る検討を行いました。

- ・ご利用者に対し、利用者こんだん会や利用者説明会を通じ、新施設居室移行に向けた私物の

整理を呼びかけ、施設備品等についても職員間で協力して整理に取り組みました。

- ・新施設建築に関する作業等に注力したため、清瀬療護園との“食を通じた支援”に関する取り組みはペンディングとなっております。

#### 【今後の課題】

- ・引越しプロジェクトのスマールステップとして令和6年度4月から新施設移行後の男女混合フロアを想定したご利用者の居室移動を計画的に実施します。
- ・既存施設から新施設への物品の移行先や、新規購入物品の選定を具体的に検討するとともに、ご利用者が新施設居室への移行をイメージしやすいよう、既存施設内にモデルルームを再設置し、家具等のレイアウトを行いやすい環境を整えます。
- ・引っ越し業者の選定や、引っ越し当日までの流れの詳細を検討し、余裕を持ったスケジュールを作成します。
- ・他施設への見学の中で喜望園として有益な情報を取捨選択し、より良い生活空間に繋がるよう、得られた情報を基に工夫を取り入れます。

### 3) 経営基盤の確立

#### 【目標】

- ・令和5年度中に入所利用者60名の受け入れを計画的に行い、令和6年度からの民間移譲後の経営基盤の確立を目指します。
- ・入所利用者の受け入れを計画的に行い、最重度障害者30名以上になるように設定します。

#### 【取り組み状況と結果】

- ・今年度8月より、東京都身障センターからの推薦による利用調整（都枠）30名の受け入れを開始しました。訪問面談を実施と直接窓口による入所利用調整も併用し、10月以降毎月1～2名の新規入所利用者を受け入れ、令和6年2月末までに60名定員満床の運びとなりました。最重度障害者受け入れ目標30名としておりましたが、結果42名の方を受け入れました。最重度及び医療ケアの必要なご利用者の受け入れに対し、施設内各課が高い意識を保ち計画的に行えたことで、年度内に満床とすることが出来ました。
- ・新施設で開設予定である通所生活介護事業に係る受入準備に関して、広報活動の一つとして空床利用型短期入所開設のお知らせの中に新規事業の情報を載せ、近隣の福祉事業所や区市町村窓口への配布を進めています。
- ・人材確保として、法人の採用プロジェクトとも連携し、喜望園としての採用活動を強化、取り組みを重ねた結果、2024年度新卒者6名の採用が決まりました。この結果は、チームの積み重ねた取り組みの成果であり、事業継続のために将来的な計画をもって取り組むべきことと考えます。

#### 【今後の課題】

- ・ご利用者の安全安心の暮らしを確保及び安定した職員の雇用を維持するためには、随時サービス内容の点検及び法人内異動の促進、採用活動に関する事業所間の情報共有について清瀬喜望園のみに留めず、清瀬エリア（清瀬療護園・カーサマリモ）との一体化、引いては మరి 也会全事業所の一体化運営への取り組みへと繋げることが重要と考えます。
- ・令和7年度からの通所生活介護の新設に向け、収集したニーズから送迎可能範囲や活動メニ

ユー内容を検討し、魅力ある清瀬喜望園の通所生活介護事業、短期入所事業を広く伝え、新規利用者の確保に向け取り組んでまいります。

#### 4) 人材育成

### 3 申出のあった苦情の対応

申立月	苦情の内容	対応と結果
7月	利用者ご家族より、施設が支援記録を印刷して渡してくれないという趣旨の報告が実施機関の担当者宛にあったとの事。	ご家族へ電話にて説明し、書面の文言について了承を得る。後日郵送とした。

### 4 発生した事故の内容

種別	件数	摘 要
重大事故	5件	① 8月 ご利用者様自身による転倒で骨折 ② 12月 透析へ行かれた際、車椅子がいつもと違い、除水量の変更が気づかなかつた。車椅子がいつもと違うことの報告漏れ。 ③ 1月 自立されている方の服薬されていないことに気づいたが、その後の対応を失念し、服薬が出来なかつた。 ④ 1月誤薬。他利用者の薬を服薬させてしまう。 ⑤ 2月誤薬。必要のない方に緩下剤を服薬させてしまう。 ⑥ 3月誤薬。利用者の当日に加え、翌日の分の投薬もしてしまう。

## 5 職員体制（令和6年3月31日）

職種	常勤職員	非常勤職員	常勤換算数
施設長	1		1
副施設長	2		2
事務員	5	2	6.2
生活支援員	35	12	41.6
医師	1		1
看護師	2	3	3.1
准看護師	3	4	5.9
理学療法士	1		1
言語聴覚士	0	1	0.2
薬剤師	0	1	0.8
検査技師	0	1	0.8
レントゲン技師	0	1	0.1
管理栄養士	1	0	1
調理員	4	5	6.6
運転手	1	0	1
洗濯員	0	2	1.4
合計	56	32	73.7

## 6 研修の実施状況

### 1) 施設内研修

研修名・テーマ	講師	参加職種	開催時期	延人員
リフト研修	副施設長 支援課課長	生活支援課	5月	42名
障害特性について	副施設長	生活支援課 管理課	5月	6名
ハラスメント研修	副施設長 管理課長	全職種	6月	15名
障害特性・SHEEL分析	副施設長	生活支援課 管理課	6月	5名
会議の進め方	副施設長	生活支援課 管理課	7月	5名
酸素研修	管理課課長	生活支援課	7月	支援課全員
虐待防止研修	管理課課長 生活支援課主任	全職種	7月	全員
事例検討会	副施設長	生活支援課 管理課	8月	7名
制度について	副施設長	生活支援課	8月	8名

		管理課		
マネジメント	副施設長	生活支援課 管理課	9月	5名
制度について	副施設長	生活支援課 管理課	9月	5名
高次脳機能障害について	東京援護協会	生活支援課	10月	20名
排泄介助研修	ユニ・チャーム	生活支援課	11月	20名
組織マネジメント研修	副施設長	生活支援課 管理課	12月	6名
喀痰吸引研修	看護師	生活支援課	12月	1名
在宅酸素療法 講習会 1	フィリップス	看護・介護	12月	15名
虐待防止研修	管理課課長 生活支援課主任	全職種	1月	全員
医療研修・ノロウイルス対策と手洗い講座	平尾看護職員	全職員	1月	20名
酸素取扱い研修	管理課課長	生活支援課	2月	5名
在宅酸素療法 講習会 2	帝人	看護・介護	2月	12名
新卒研修	法人・副施設長・ 生活支援課長	次年度入職者	3月	6名

## 2) 施設外研修

研修名・テーマ	主催	参加職種	開催時期	延人員
人工呼吸器研修	フィリップス	生活支援課 診療課	7月	31名
全身障・全国大会	全国身体障害者 施設協議会	生活支援課	7月	3名
サービス管理責任者研修	東京都福祉局	生活支援課	8月	1名
リフトリーダー養成研修	JASPA	生活支援課 診療課	8月	4名
ビジネス基礎研修	リクルートマネ ジメントソリュ ーションズ	管理課	8月	1名
介護福祉士実習指導者研修	東京都介護福祉 士会	生活支援課	9月	1名
サービス管理責任者研修	東京都福祉局	生活支援課	11月	1名
職員スキルアップ研修	全国身体障害者 施設協議会	生活支援課	12月	2名

サービス管理責任者研修	東京都福祉局	生活支援課	12月	1名
社会福祉の法体系	まりも会理事長	全職種	1月	7名
権利擁護・虐待防止研修	まりも会法人本部	管理者・生活支援課副主任	3月	2名

## 7 サービス単位ごとの年間利用者延べ総数 入所定員（60名）

区 分	利用者延べ数
6	12,169
5	4,087
4	1,661
3	835
2	619

## 8 行事の実施状況

実施月日	行事名	参 加 者			
		利用 者	職 員	その他	計
4月5日	お花見散歩外出	40名	10名		10名
5月23日	小外出（ショッピングモールへ）	10名	10名		20名
6月7日	小外出（ショッピングモールへ）	6名	6名		12名
7月26日	納涼祭	全員	勤務者全員		全員
9月27日	食欲の秋:秋のスイーツ選択式おやつ	全員	22名		80名程度
10月11日 ～11月11 日まで	小外出 （小金井公園・多摩六都科学館）	全員	4名程度		10名程度
12月20日	ゆず湯実施：20日～22日	全員	5名程度		5名程度
12月20日	クリスマス会	全員	10名程度		10名程度
2月8日	節分：豆まき	全員	10名程度		10名程度
2月15日	武蔵野大学とコラボ行事实施（櫻井ゼミによる櫻まつり）利用者家族40名参加	全員	10名程度	10名	20名程度
3月25日	お花見イベント:シャトレーゼスイーツ提供	全員	10名程度		70名程度